令和4年度第1回

逗子市総合教育会議

令和4年10月27日

逗子市

会 議 録

令和4年10月27日令和4年度第1回逗子市総合教育会議を逗子市役所5階第4会議室に召集した。

◎ 出席者

桐ヶ谷	覚	逗子市長
大河内	誠	逗子市教育長
星 山 麻 木		教育長職務代理者
若 林 順 子		教育委員
高 橋 康		教育委員
福 田 幸 男		教育委員

◎ 事務局

柏 村 淳	副市長
村 松 隆	教育部長
佐 藤 多佳子	教育部次長・教育総務課長事務取扱
杵 山 英 廷	教育部参事（学校教育担当）・学校教育課長事務取扱
西 村 知 子	学校教育課担当課長（学事指導担当）
岩 佐 正 朗	市民協働部長
石 井 聡	市民協働部次長・市民協働課長事務取扱
須 田 純 子	教育総務課副主幹

◎ 開会時刻 午後4時00分

◎ 閉会時刻 午後5時40分

1. 開 会

○事務局（佐藤次長）

それでは、定刻になりましたので、会議のほうを始めさせていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただき、どうもありがとうございます。ただいまから、令和4年度第1回逗子市総合教育会議を開会いたします。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長が教育委員会委員の皆様と、大綱の策定に関する協議のほか、教育をめぐる諸課題について、協議及び事務の調整を行うことを目的に、市長が招集し開催するものです。

傍聴の皆様をお願いいたします。傍聴に際しては、入口に掲示されております注意事項をお守りくださるようお願いいたします。なお、報道関係者以外の録音、写真撮影につきましては、許可しておりませんので御了承ください。

また、会議の決定により、非公開にすべき事項と思われる案件が出されたときは、退場いただく場合がありますので御了承ください。

2. 市長挨拶

○事務局（佐藤次長）

それでは、次第に沿って会議を進めてまいります。初めに桐ヶ谷逗子市長から御挨拶お願いいたします。

○桐ヶ谷市長

皆様、こんにちは。教育委員の皆様には本当に日頃から本市行政に大変御尽力いただいております。誠にありがとうございます。また、今日は教育委員会の重要課題ということにつきまして、皆様に協議をさせていただいて、今後の方向性を共有していきたいと考えているところであります。

ここ直近の最大の課題は、このいじめ問題に対する今後の対応ということが最大の課題であります。これは私も今、予算編成と来年度に向け準備しているところでありますけれども、どう予算を含めて市の姿勢を反映していくかということが最大の課題と考えているところであります。先般、今週でしたか、予算編成させてもらいまして、満額回答、教育のほうの要望に対しては全て予算化するというので今、進めております。何よりも学校の先生を元気にすると。それによって課題を一つ一つ解決していきながら、子どもたちに向き合える環境をどうつくるか。それは市長部局としては予算の上でそれを支援するということになってまいりま

す。来年度以降も出産から子育て、そして教育というものが逗子市の最大の課題と考え、取り組んでまいりますので、その中心でありますこの教育に関しましては、ぜひ皆様の御意見、厳しい御意見、これをお願いできればと思っております。今日はよろしくお願いをいたします。

3. 教育長挨拶

○事務局（佐藤次長）

ありがとうございました。続きまして、教育委員会を代表して大河内教育長から御挨拶をお願いいたします。

○大河内教育長

皆さん、こんにちは。市教委を代表しまして、一言御挨拶申し上げます。

本日は市長から総合教育会議を招集いただき、ありがとうございます。市長におかれましては、今お話ございましたように、この難しいコロナの時代の中で、市民生活の安全と充実のために強いリーダーシップを発揮され、また出産から子育て、そして、教育の逗子だということで、本市の教育施策の充実に向けた多大な御支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

市長から、冒頭にお話ありましたように、各委員の皆様方から御意見をいただきながら、方向性を共有していきたいと考えております。限られた時間でございますが、よろしくお願ひ申し上げます。

○事務局（佐藤次長）

ありがとうございました。議事に入る前に、本日お配りしております資料を確認させていただきます。まず、会議の次第です。次第の次が構成員の名簿がございます。それから、いじめ根絶に向けた取り組みについて、1枚のものです。それから、逗子市総合計画進行管理表（令和3年度分）と書いたもの、こちらは抜粋版となりますが、こちらになります。それから、令和5年度予算編成方針。最後に逗子市教育大綱の改定について。以上でございます。配付漏れはございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

それでは議事に入ります。ここからの進行につきましては、桐ヶ谷市長をお願いいたします。

4. 議題（1）いじめ根絶に向けた取り組みについて

○桐ヶ谷市長

それでは、次第に基づきまして議事を進めてまいりたいと思います。ぜひ積極的な御発言、円滑な会議の進行ということで御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、最初の（１）いじめ根絶に向けた取り組みについて、議題としたいと思います。事務局のほうから説明をお願いいたします。

○枚山教育部参事

よろしくお願いいたします。いじめ根絶に向けての取り組みについて、資料を配付させていただいております。既に皆様御承知のとおり、令和２年９月から１１月にかけて市内の小学校で発生したいじめをきっかけに、児童が転校に至るという案件が発生しました。転校の前に、３０日を超える不登校事案となり、不登校案件のいじめ重大事態になります。その後、委員会での調査、それから保護者の要望により当該の学校と市の教育委員会、我々学校教育課の取り組みについての分析等を逗子市いじめ問題調査委員会のほうに諮問し、５月９日の段階で答申が出てございます。その後、保護者からの所見をお待ちし、その後８月に市の学校教育課のホームページのほうに公開してございます。その際に、所管といたしましては、今回の小学校で発生したいじめの重大事態については、答申に示されている内容を真摯に受け止め、反省し、改めるという意味も込めまして、市立学校におけるいじめの根絶を目指した取り組み、特にいじめの未然防止と早期発見、さらに早期解決の取り組みということで、以下５点について取り組みの方針を掲げさせていただき、答申の公表とともに公表させていただいております。

１番目のところを御覧いただければと思います。教育委員会と学校については、市立の全教員に対して今回の事案の共有、それから今回の事案を題材とした、いじめを重大事態化させない取り組み、未然防止の具体策について、研修を実施するということが掲げてございます。こちらにつきましては、教育長自ら全ての学校を２学期に当たる夏休み明けの授業再開の前に学校を訪問し、事案の説明、さらにこの取り組みの方針を説明させていただいております。また、その後の校長会議の際にも、さらに校長に強く今後の方針について話をさせていただいております。

２番目のところにつきましては、各学校のいじめ問題担当者をメンバーとする常設の会議を新たに設置し、そこで取り組み、あるいは情報共有、情報交換という会の設定を予定しております。こちらのほうは、年度途中ではございますが、１０月１１日に教育相談コーディネーターに本年度は兼務させるということで、既に１回実施してございます。来年度から新設と

いうことで、その会を実効性のあるものにしていきたいと考えております。

3番目のいじめ重大事態に対応する際のフローチャート及びガイドラインの作成については、所管のほうでその素案を作りまして、先ほどお話しした担当者会議のところでも既に例示して、今後、校内でも検討して、その結果を持ってくるようにと、担当のほうから指示をさせていただいております。

4番目の全ての教員を対象としたいじめ防止及びいじめへの対応をテーマとする研修会については、今年度その機会を設けるのはなかなか難しいので、来年度に向けて予算措置と委員会のほうがシェアできる措置を今後講じていきたいというふうに考えております。

最後、学校いじめ防止基本方針について、いじめ防止の取り組みがより実効性のあるものになるように、常に改善ということで、毎年学校を構成している児童・生徒は変わっていきますので、必ず見直しをして、実効性のあるものということで、指示してまいります。

以上5点を取り組みの方針ということで、今年も含めて来年度に向けて取り組んで、いじめの根絶を目指していきたいというふうに考えております。

さらに、先ほど市長の御挨拶の中でもありましたとおり、現在来年度に向けて事業査定が進行してございます。市長お話ししていただいた学校の先生を元気にするという趣旨で、県費の教職員の加配を待つというところは、なかなか難しいので、市のほうで市費を使って加配していただくような形で、人材を学校のほうに赴任をするような形でお願いしています。そうすることにより、子どもたちと向き合う時間を今以上に確保し、子どもたちの様々な課題に対応できると、それから目を増やして、対応していきたいというふうに考えております。具体的には、特別支援補助教員、教育相談コーディネーターの後追いをさせていただく教員の配置、それから少人数指導教員、さらには通級指導教室を補う巡回の指導教員、さらにはスクールサポートスタッフ、それからじいろサポーター、ICT指導員、それから教育指導教員の増員ということで、今、事業査定のほうにかけさせていただいているところでございます。

この取り組みで、できるだけ学校がうまく動き、機能するような形に努め、いじめの根絶をはじめ学校の様々な課題解決に向けて努力していきたいというふうに思っています。以上になります。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございました。ただいま説明ありましたいじめ根絶に向けての取り組みということについて協議してまいりたいと思います。皆様に御質問また御意見いただきたいと思

うのですが、いかがでしょうか。

○福田委員

今回、逗子でいじめの重大事態が発生して、それで関係者が大変その対応に苦慮したという事実ですね。こういうを受けながら、逗子でのこれからのいじめ問題に関する大きな転換点になったというふうに考えてもいいかと思しますので、調査委員会からの報告は先ほどもありましたとおり、本当に関係者としては真摯に受け止めて、問題点を洗い出して、二度といじめが起こらないような対応をとっていく必要があるだろうというふうに重く受け止めています。

そういう意味で、これからの取り組みの今日提案がありましたけれども、それを具体化というか、実際に動かしてみて、実効性のあるものにしていく必要があるだろうと。いろいろ予算とか何か制約上の問題点はあるかもしれませんが、とにかくできる限りこのいじめ問題に関して前向きに取り組む必要があるだろうし、そのことを学校関係者はもちろんのこと、市民の皆様にも御理解いただいて、市全体としてですね、このいじめに積極的に取り組んでいるんだということをお伝えできれば、この先、新たな事案等に対する対応が変わってくるのかなというふうに思っております。これは教育委員会側の大きな責任のもとに行うことだというふうに思っています。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。対策の方向性を決めたら、もう走るというものではなくて、それを実効性あるものにどうまた組み立てしていくか、ブレークダウンしていくかということが非常に大事だと思いますので、ぜひそういう観点からも、皆様からまた御意見いただいて、担当所管がそれをもとに組み立てをして、実施に移していくという、そういう作業になってこようと思います。ありがとうございます。

御意見いただけませんか。

○若林委員

今起きているいじめ問題、またさらにこれからずっと未来も続いていくので、こつこつと、みんなで考えていかなければいけないことだと思っておりますし、子どもを中心に学校教育もそうだけれども、家庭教育、社会教育、3つのことがうまく関わってこそことだと思っております。ちょっと乳幼児のほうに関わっていることで考えると、家庭というのは全ての教育の出発点で、家庭教育はとても大事だと思うのですが、やはり核家族化とか、子育ての不安を抱えている保護者の方が多くて、どうしていいのかわからないというのが聞こえてくる

のですね。だから、家庭教育というと、子どもの安全・安心だったり、早寝早起きとか、そういうことだったり、人権だったり、いじめ防止に対することだったり、不登校のことを考えると、いろいろなことがあると思います。例えば保育園とか幼稚園で家庭教育講座みたいなものやって、また小学校でそういうことができたり、学童だったり、地域だったり、そういったところで不安をぬぐってもらえる、いじめはいけないんだということをつなげる教育をしていけるような大人づくりというの、周りの囲みということ言えば大切だし、例えば転入してきた方がぼつんと逗子に来たときも、御家族がそこに逗子に早く居場所ができる、安心できるというの、やはり地域の力がないと、孤立してしまったら相談もできなかつたりするので、不安も強くなるので、本当に学校だけではなくて、先生たちは本当に頑張ってくださいと思っているので、地域とか家庭とか、個々の暮らしの中でもできる教育というのを、こつこつ積み上げていかないと、本当に今、昔だったら考えられないようなけがをしてみたり、そういったところも子育て力というの、ちょっと難しいのかなというところもあります。市として子育てできるまちづくりというのが大事だと思うので、考えていきたいなと思っています。

○桐ヶ谷市長

そういうのに所管のほうで御意見いかがですか。福田委員、若林委員、おっしゃられましたけれども。

○枚山教育部参事

福田委員おっしゃるように、今回のことが非常に大きな転換点だと所管としては受け止めております。今まで、いじめ問題が皆無だとかということは決してないのですけれども、今回こういう形で大きくなったということは、いろいろなことを考えなければいけない、いろいろな対応等も考えなければいけないと、本当に転換点だというふうに思っております。我々としては、できる限りのことを前向きに、一つ一つやっていく必要があると思いますので、丁寧に対応していきたいと思っております。

それから、若林委員がおっしゃったように、この先もまだ続く話だと思いますし、いろいろなところでいじめ案件に限らず出てくると思いますので、所管を超えた形で協力しながら、いろいろなことに取り組んでいきたいと思っております。特にいろいろなところを巻き込んでというところに関しては、この間、御意見いただいておりますので、学校教育としてはいろいろなところに助けをいただきながら、それから先ほどお話ししたところも含めて、いろいろなところに今やっていることを発信する、また、発信できる工夫は考えていきたいと、その上

でお力をお借りできるところについては、お力を貸していただき、学校教育がよりよいものになるように、逗子の教育がよりよいものになるように努めていきたいと思えます。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございました。ほかに御意見ございませんでしょうか。

○若林委員

質問です。すみません。学校で生徒たちが自主的に、主体的に、いじめ問題とか、そういったのを学活とか、児童会とか、そんな形でとか、子どもたちが考えるというような取り組みみたいなのはやってきているのでしょうか。

○杵山教育部参事

具体的なことは、今は聞いてはいないです。過去には講師の先生をお招きしたなどは、記録ではいくつかありますけれども、この件の後に具体的に動いて、子どもたちが主体的に取り組んでという報告は何ってないです。

○桐ヶ谷市長

ほかに。

○高橋委員

ここの前文にある中で、未然防止、早期発見、この部分なんですけど、やはりまず子どもに関心を持つという基本姿勢が必要なのかなと。保護者もそうですし、先生もそうですし、あと地域の方々という、やはり子どもを見守る目が多ければ多いほど、そういった事案に対していろいろな情報が集められるので、そうするとその次の事柄が進んだときに、いろいろな対策が練られるのかなと。どうしても当該の子どもと大人だけの間の何かこういうものとなっちゃうと、ちょっとなかなか手を突っ込むのも大変なことに、そうならないためにも、まず子ども、そういった関心を持って見守る目を少しでも多く増やすという環境と意識が必要なのかなと。あとは、そこからはやはり情報共有といいますか、あの子、何かこういうことをやっていたよとか、いろいろなそういうことがあると思いますし、親同士がつながると、自然と子どももつながると思いますし、逆に学校で子ども同士がつながると、親同士もつながったときに、何かちょっとあった場合に、未然防止といいますか、フランクにといいいますか、話があって、また元の形に戻るとかということがあるのかなと思います。ですので、この部分でそういった環境づくりが必要ですし、あと逗子は狭いまちですけど、地域によっていろいろと特色があると思うのですね。地元の活動が盛んなところとか、そうでないところ、そういう環境とかいろいろなことを踏まえ、地域を総合的にちょっと見ながら、一つのフォ

ーマットとかフローチャートとかという、大筋ではそういったものは必要だとは思いますが、けれども、実情に合わせた、本当にこれ、もっと細かく言うと、本当にケース・バイ・ケースだと思いますので、その辺が柔軟に、また情報に多く対応できるという環境づくりが大切なような気がいたします。以上です。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。コメントございますか。

○枚山教育部参事

委員がおっしゃるとおり、子どもに関心を持つことは非常に大切なことで、学校の関係者に限らないと思っています。そういった意味では、まだ開催できてなく、今、準備中なのですけれども、市のいじめ問題対策連絡協議会がその機能を担うというふうに思っております。昨年10月に施行しましたいじめ防止基本方針の中の冒頭でも、いじめ問題は子どもだけの問題ではなく、地域の大人、市民全体で見守り、当事者意識を持って取り組まなければいけないことと示しています。先ほどお話しした協議会の中には、学校関係者だけでなく、市の子どもに関わる所管の学校教育、人権擁護ですとか、児相、それから警察等をメンバーとして、地域全体としてはいじめ問題を考える、いじめ問題に限らず、子どもの日々の動きとか、そういったものを見守り、地域の目と、それからアンテナを高くするという目的がございますので、そこで情報共有を進めながら、逗子の市民全員が子どもに関心を持てるようにしていく機関にしていきたいと思っております。

○星山委員

まず、いじめはなぜ起こるかということに関して、全ての人が真剣に考える機会を持たないと難しいと思います。今日の御提案は、学校教育中のでき得る最大のことが提案されて、それはそれでとてもいいと思いますが、ある意味、学校教育だけでは解決できないからこそ、みんなで話し合わなければいけないという会だと思つるので、じゃあ一体、学校教育で、ここ、主語がほとんど「教員」と書いてあって、教員というのは一番子どもに学校の中で関わっているもので、その中でできることが書いてあるのですが、果たしてこれだけでいじめってなくなるのかなというのが多分ほかの先生方もおっしゃっていたことだと思います。

じゃあ、ほかに関わっている人物は誰かといったら、まず親なんですね。この親に対して具体的に何か考えないと、非常に難しいと思います。私は、ここは学校教育の管轄ではないと思います。ほかのところと非常に大きく絡んでいて、それが一つは乳幼児期から学校へ入る前から、親御さん同士がどうやって共に生きるということや多様性の尊重ということに関

して真剣に考えたり助け合っていくかということ、学校に入る前からきちんと学んでいるかということですね。これが1点です。ここはどちらかというと、子育て支援の話になりますね。

それからもう一つは、その後、家庭教育って話になりますけど、今度はもう社会教育に絡んでくるところで、人間として生まれて、やはり一生学んでいくべきことというのがあるので、そこに関して、いじめも一つだと思うのですね。やはりみんな、大人のことを見て子どもたちというのは学んでいるわけですから、そこに関して何か具体的に、特に親御さん同士、温かい関係でつなぐということ。異質のものを排除するのではなくて、それぞれ支え合っていくというモデルをどうやって描けるかという、大人側の生涯を通じての教育ということが、もう少し具体的に見えてこない、支えきれないのではないかなというのが一番考えていることです。

私の経験上、いじめの一番最初というのは、ほんのささやかなコミュニケーションのすれ違いから始まったり、ほんのささやかな感情のすれ違いから始まったり、でもそれを予防的にか、ちゃんと善意で通訳してくれる人が周りにいれば、子どもであれ教員であれ親であれ、予防することってできる…できたはずだと思うのですね。でも、できないということは何を意味しているかというと、つながりがうまくいってなかった。いろいろなところでつながりがうまくいってない。だから、いじめの予防というのは、どうやって子ども同士や大人同士のつながりを丁寧に構築するかという、そういう話ではないかなと私は考えているのです。

大人というのは、子どもについている大人というのは、教員だけではなくて、親と地域もいるということですね。それはおっしゃっていただいたとおりなのです。それと、これから先は、地域の力をどういうふうにインクルーシブしながら、共に学ぶデザインを具体的に考えていけるか。それがまた見え隠れしていましたが、子どもは自分で考えなければ駄目なんだと思うのです。自分で。自分が主体で考えて、なぜいじめが起こるか、どうしたら予防できるかというのを、子ども同士で考え合わないと難しいし、親御さん同士もぜひ学んでいただきたいなど。私も含めですけど、子どもがうまくコミュニケーションがすれ違っているときに、私はどうやって子どもたちを助けられるかということ、親同士が学ばないと難しいし、先生同士だけでも駄目で、先生と保護者と地域とがやはりみんなで横に手をつないで、逗子の子どもたちをみんなで包み込んでいくのだという場をどうつくるかですね。だから、もしかするとプログラムが必要かもしれないし、それを検討する場が必要かもしれないけれ

ども、そこに関して、ある種みんなに関しての教育プログラムかもしれないですけど。そうすると、やはりもう少し、ここを超えた課の方が見守ってくださって、どうしていくかというプランニングを考えていかないと、なかなか将来にわたって本気で取り組んでいくというのは難しいのではないかなということは、私はこのいろいろな何か月かにわたって起こっていることと、取り組みということを考えて感じたことです。以上です。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。今、星山委員から言われた、一つは学校の先生に対する対策は、今後進めるということで方向性は決まりました。でも、今言われる親とどう連携組んで、親も考えていただけるような仕組みというか、そういったものは何か今、所管のほうで検討していることってありますか。例えば集会を開いて、どなたか講師あれしなごら考える機会をつくって行って、これを塞いで蓋してそのことを過ごすというのではなくて、起きたらしょうがないのだから、正面から受けて、それをどういうふうに共有しながら考えていただくかと、これ、学校に預けたからといって、できないでしょう。どうですかね。

○枚山教育部参事

当然、お子さんを学校でお預かりして、いろいろな場面で保護者との関わり、面談等もありますし、あるいは学校のほうで主催したり、PTAのほうで主催した、そういう研修会とか講演会のようなものもありますけれども、なかなか日々の教育活動の中で保護者への働きかけを、教員に担わせるというのはなかなか難しいかなというふうには思っております。なので、今、学校教育のほうでできることとしては、ここでいただいた御意見とかを学校のほうにお話しさせていただいた上で、PTAのお力を借りたりとかして、そういう場面を、御提案いただいたそういった場面をつくるということが今できることのマックスのところかなというふうには思っております。あとは、ほかの所管とか、ほかの学校を取り巻くいろいろな方のお力を借りて、そういう機会をつくっていく必要性はあるかなと思いますけれども、なかなか、こちらのほうからお願いするというような形になるので、主体的に動いていくのはなかなか難しいかなと思っています。

○桐ヶ谷市長

どうですかね。今後、問題はね、僕、皆さんにお聞きしたいと思ったのは、制度、目標は、来年度の目標を考えたといっても、考えればそれでうまくいくかと、そんなことはなくて、事前準備なり、ほかに今言ういろいろなことを総合的に検討した上で、どこから何ができるだろうかというふうにやっていく。それでいて、学校の先生も、反対側にいらっしやいます

から、どう進めるのがいいかですけれども、年度方針があったから、じゃあ来年になればこうなるんだよねといっても、僕はうまくいかないのだろうと思うのです、勝手に。やはり、ここからが、来年スタートするまでのこの期間がものすごく重要になってくるような気がしているのです、自分では。ぜひその辺の御意見も今日いろいろお聞かせいただきながら、担当所管のほうはそういうのを総合的に判断して、对学校側とどういうふうにするか、進めていくかと考えらうべきかなと思うのですね。どうなのでしょう。

○大河内教育長

学校自体が、保護者が子どもを預けたらば、何もなく、普通に生活して、戻ってくるというように、そういう部分というのは、すごくイメージが強いのですね。ただ、学校は、人間関係が未熟な子たちを集めて、人間関係を構築し、そこから社会性を補っていくというところなので、そのためにクラス分けがあるのですよね。星山委員もお話しされましたけど、問題が起きるのが当然だし、ただ、そこに大人の目がどういうふうに進透しているか。力関係がきちっと、変な意味の力関係が起きてないかですね。昔流の教育というのは、みんなと同じという形でできていたのだけれども、今は多様性を尊重するという形で、一人一人が違っていいのだという中で始まるわけです。学校をこの間回ったときに、子ども一人一人、物差しが違うわけだから、その物差しに合った捉え方をしなければいけない。今一番それが大事な時期で、学校が万能ではないのだけれども、ただ、子どもの見取りについては、きちっと行ってほしいという話をさせてもらいました。また、子ども一人一人に対して「あの先生はあなたのことをしっかり見ているよ」ということが言えるような情報共有をやっていかないと、忙しいからできないではなくて、最低限そこは、きちっと学校としての役割は果たしていかなければいけないと思います。

今回の件についても、やはり最初の転入の情報共有から始まっていますので、そしてあとは隣のクラスで何が起きているか分からないみたいな、そういう形ではなくて、やはり職員室または職場で安心して自分の悩みとか、疑問を話せるような、そういう学校マネジメントは校長の責任だと、校長会の中で話しています。ですから、そこに地域の目とか、先ほども出ているような学校以外の教育体制が入ってこそ、新たに改善していくと思います。学校としてはまだやるべきことが十分あるわけなので、そこはきちっと捉えながら、効果が出るような形で学校運営を行ってほしいと思っています。

○星山委員

学校教育でできることと学校教育以外でできることというのがあって、学校の中でさらに

連携を促し、今までいろいろマンパワーが足りなかったところも補強していくと。この考え方は一つ、学校の中でできる精いっぱいということに関してはいいと思うのです。でも、皆さんもすごく御尽力いただいている。しかし、さっき出てきた親同士のつながりであるとか、乳幼児期からどうやって親をつなぐかというのは、学校外のことだと。これは学校教育課の総合会議をやっているのではなくて、教育委員会全体の会議なのだから、違う、ここではやりたいけどできないのですということに関しては、やはりほかの課の方からも、このいじめということに関して、何か提案していかないと難しいのではないかな。

1つ、若林先生がおっしゃっていたのは、早急にやらなければいけないのではないかなというのは、やはり親同士の温かなつながり、これに関しては、とても深く絡んでいると思うのです。見えてこないけれども。親というものは、不安になるとやはりすごく不安になると、みんなとても、何ですかね、いろいろなところにそれが投影されるんだと思うのですね。だから、それを予防するということは、逗子の子育てしている親同士がどうやってつながるか、基本的に考えないといけない。だから、多分所管が学校教育ではないのだと思います。ここに関しては。そこに関しては、ちょっと今日は難しいかもしれないですが、私はやはり具体的に、そろそろというか、動かないと、いろいろなことをやっているのです、やはり、みんな工夫して。キャラバン隊つくってみたり、茶話会やってみたり。今、親御さん同士、放っておくとぼらぼらになっちゃうのですね。昔の逗子だったら、多分みんな仲よかった、今もいいほうだと思いますよ、温かなところだと思います。でも、やはり何かやはり市としても具体的にやっていかないと、親をつなぐのは今、とても、それこそ親も多様なので、難しいのではないかな。それはちょっと来年度以降、具体的に何かお考えになったほうがいいのか、考えていきたいなというふうに思っているところです。

○桐ヶ谷市長

それに対して何か、全員ここで、全員で何かいろいろな意見出し合ってやれるところを考えましょうよ。それが教育のほうへのアドバイスというか、アイデアだったりするかもしれないので、思うことがあったらみんなほんと言わないと。これ、形式上、対策これで終わりましたと言って、時間がたっても、いや、大して何もほとんど変わっていませんねということになりかねないので、この機会にほんと、起こったことは最大のこれはあれとして受け止め、一気に変えていくぐらいのつもりでいかないと、せっかくというか、起こったことが生かされない。

○星山委員

私は逆にそれ、こんなものがあつたらいいんじゃないかということがあつたら、何か御提案というか、伺ってみたいし、またほかの方も、こんなことだつたら応援団になれるのではないかということがあつたら、何か具体的にアイデアだけでも、それは子どもたちを守ることにつながるのではないかなという気がするので、もしあつたらちょっと伺ってみたいなどという気はいたします。

○桐ヶ谷市長

ないですか、皆さん。

○星山委員

特に親同士のあたりで。親と教員もですけど。

○桐ヶ谷市長

となると、子育てのところの動き方がまたそこにつながってくるというね、子育ての部分がどうあるべきかとか、いや、本当にあのホットスペース、子どもを預かる、あそこに顔を出してみるとね、お母さんたちはやっぱり子育てに相当神経使いながら悩んでいて、ここにいると本当に助かるんですというぐらい。昔ならあれが大家族で、誰かが面倒見てくれて、個人にかかる負担というのは相当小さかったのだろうけれども、ましてやよそから逗子に引っ越してこられた方なんていうのは、周りに知らない中で子育てしてなければいけないというと、あそこに預けられたときは本当にほっとするんですよとあって、にこっと笑ってますからね。それも含めて、ずっと小学校から始まる学校教育につながっていくでしょうね。

○柏村副市長

教育委員会の中に子育て支援課、保育課という所管、課がございます。そういうところで親同士のつながりがどうしたらできるのだろうということを、課ごとの中で検討してもらってもよろしいかと思います。そこで意見を聞いて、何ができる、市役所として、市として何ができるのかということ、また教育委員会含めて、学校教育含めて考えていただくということも一つの方法だというふうに思います。そしてあと社会教育もございます。社会教育の中で講座を持っているのですね。講座を集中的に、子どもの人権なり、やっていると思うのですけれども、幅広く展開しているので、そうではなくて、もう5年度はいじめをなくすための講座を開催するというのも、一つの考え方だというふうに思いますね。

ですから、そのほか人権に関しては市民協働課でございますけれども、そこも少し絡んでくるのかなというふうに思いますけれども。子育て支援課、保育課で所管する事業の中で、何ができるのかというのは本当に難しいかと思っておりますけれども、教育委員会の中にあります

から、そこは問題を投げかけて検討してもらおうというのも一つの案であるというふうに思いますね。

○桐ヶ谷市長

やれるとすると来年度。今年はまだ無理だよ。予算の配分ないし、決まってないから。

○村松教育部長

そうですね、予算をかけずに、来年度に向けて、来年度の取り組みに向けての例えばミーティングなりといったことは、もうすぐにでも着手できると思いますので、この会議の前の教育委員会でも、幼・保・小・中までの連携といったことが委員の皆さまからも御提案いただいておりますので、そういった点は本当に教育委員会の中で課をまたいで連携しながら取り組んでいく、来年度に向けて、一部スタートしている部分もございますので、さらに発展させていくということはやっていかなければいけないだろうと。

○福田委員

基本的な考え方は、皆さんがおっしゃるとおり、全体でということですがけれども、一方で即効性ということを求めて、果たして成果が出るかということもあるのです。やはりある意味では時間をかけながら地道な活動を展開していった、初めてゴールにたどり着くという面もあるのです。教育というのは非常に難しいところがあって、1日で変わることもあるし、10年で変わることもあるかもしれないという、そういう時間スケールでね、やっぱり考えていかないと、ゴールにたどり着けないのかなという。とにかく継続して地道な活動を、まずベースに据えた上で、いろいろな展開、アイデアを出していくということをしてもらいたいなという。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。本当に学校だから、学校について学校だけで考えていると、やはり何かちょっと対象が違う可能性もありますから、そこは行政側としては全体で幼・保・小・中の連携含めた取り組みの中にこのテーマが入ってきて、結果、福田委員がおっしゃられる時間がたってみたら本当はあれが転機で変わったよねとなることは数年後に起こるかもしれない。でも、その懸隔は、やはり早くにもみ出して、来年になったら考えますなんてやっていると、もうぐちゃっとなりますから、そういう意味では今からどうプログラム、カリキュラムを考えていけるかというところでしょうね。

○星山委員

せっかく市民協働課の方が来ていらしたら、何か人権ということで、何かお考えとかあつ

たら、ぜひ伺って。

○岩佐市民協働部長

人権というか、今お話を聞いている中で、居場所というのをどうつくるかというのが、市民協働部としての考え方からすると、重要だと感じます。子どもさんもそうですけれども、親御さんもそうで、居場所をどうつくるかというのは課題なのかなと。孤立していくと、やはりこういう弊害というか、こういう問題がすごく起こっていくような気がします。あまり私、教育について詳しくないので分かりませんが、その辺はやはり孤立を防ぐ。孤立を防いで、もし居場所というものをどれだけ市が提供できて、その居場所というものを先ほど言った講座とかもそうなのでしょうけれども、その人の居場所があれば、多分救われる部分はたくさんあると思うのですね。親御さんもそうだし、子どももそうですね。ただ、その居場所をどれだけ、市民協働部としてつくっていけるのかというのは、今後「共育」という考え方もそうですし、スポーツ、文化、そういう面を前面に出しながら考えていきたいというふうには思います。人権については市民協働課長のほうから。

○石井市民協働部次長

いじめは人権の課題ではあるのですが、先ほど星山委員おっしゃったように、そこだけではなくて、多様性の尊重ですとか、まち全体で、全体の力がある種試されている部分というのは、多分にあるのだろうと思います。なので、そういう意味では即効性はないのかもしれませんが、そういう土壌を常に耕すというか、つくっていかなければいけないのだろうというふうに思います。そういう意味では、多様性の尊重は性的問題であったり、あるいは国際的な問題であったり、そういうところで学習していただく機会はあることはあるのですが、なかなかそれが全ての方には届いてないという状況は常にありますので、そういった努力は続けていかなければいけないのかなということと、それから今、部長のほうからお話のあったつながりの面では、今回のこのいじめの案件は大分前のことですが、大分状況、環境というのは悪化しているのではないかなと。地域でのつながりという意味では、コロナの中で大分悪化していると思います。ちょっと所管外ですが、子育て中の方、特に逗子は移住の方が一定数いるので、生まれてくるお子さんよりも、小学校1年生に上がるお子さんのほうが大分多いので、後から入ってくる方は、両親教室で地域の初めての子どものお母さん同士知り合いしましょうというのでからは落っこっちゃう。そこにはいなかったお母さん同士というのが一定数、必ずいらっしゃるので、その方たちのつながりというのは、地域の幼稚園へ行ってから、あるいは保育園へ行ってからなんですけど、

久木地区で聞いたのは、待機児童の頃は保育園に入れなかったのが、地域でつながらざるを得なくて、そこで例えば久木会館に集まって、ある種、似たような境遇の方ということで仲間づくりができたんですけど、それが成立しなくなった。保育園に入れたので、いいことではあるんですけど、逆に早くから保育園に入るの、地域での同い年のつながりや結びつきが落ちて、そうするともう幼稚園、保育園だけの知り合いになっていくという傾向が強まっているのは私も個人的な地域の活動の中で感じているので、それだけでは多分足りないのだからなというところを感じていますので、もう少し出入りが自由な地域でのイベントみたいなもの、住民自治協議会なんかにはお願いはしているんですけども、子ども会なんかは成立しなくなっている中で、もう少し地域でふらっと会話ができるような場があればとは思っているんですが、そういう場がことごとくコロナの中で、例えば子育て支援センターも予約制でやらざるを得ないとか、そういう中で大分地域でのつながりは、もうどんどん、日に日に弱くなっているかなというのがあるので、それは子どもの本当に0歳から5歳、小学校上がるまで、本当に1年、1年しかないの、その中で親の関係も1年、1年しかないとする、ちょっと急ぎ考えなければいけない課題かなというふうには考えています。

○星山委員

前おっしゃっていたような多世代ですよ。教育委員会というのはやっぱりどうしても子ども対象になりがちなんですけど、普通、自然なコミュニティーというのはいろんな年齢の多世代の方、逗子なんてすごくそういう意味ではつながりが温かいところで、昔から。それを今、一回壊れてしまったものも、丁寧に紡ぐというか、再生するというあたりは本当に今おっしゃっていただいたことから転入、1年生ですね。このあたりが私はもうウェルカムプロジェクトでもやっしまえばいいのにとずっと思っているくらい、市が小さいので、逆に転入してくる人って結構孤独なんだと思うんですけど、子育てずっとしていた方には分からないのですよね、やはり。私も地元で幼児期子どもを育ててなかったの、戻ってきたんですけど、それでもすごく怖いですね、やはり。同じ保育園・幼稚園の友達がいないところに、ぽっと子どもと入るのって、誰でもそうだと思うのです、別に転入に限らず。そこで何か企画とか何か、子どもだけではなくて地域の方みんなでというのを何かあったらいいなと思いました。

○桐ヶ谷市長

不安ですからね。どうですか、皆さん。いろいろな意見をぼんぼん出しちゃって。僕、勝手に今、話を進めていいのかな、よく分かってないな。この後、年度末にもう一回あるでし

よう。大体何月を予定しているんですか。

○佐藤教育部次長

3月です。

○桐ヶ谷市長

3月。そうすると、そのときはもうこれでいくぜというぐらいの塊が欲しいですね。というと、今から次までに何をどう試してみて、そこで手応えからまとめて、それが年度スタートに、もういよいよ、さあいけますというぐらいになるような、何か今、どんどん出し合って、それをやれることから一つ一つ準備して行って、やることはやってみて、これならこれでいけそうというのをもって、年度をスタートするぐらいにしないと、何か、何もしないまま、また半年たちましたとなるのではないのというのが不安、怖い。やりましょう。ぜひ、ブレインストーミングじゃないですけど、言ってみて、いろいろな中から何ができるか。やりませんか。

これ、そもそも何時にどうすればいいんですか。

○佐藤教育部次長

この会議自体は特にないのですけれども、市長の御予定が6時からとお伺いしております。

○桐ヶ谷市長

じゃあ、あと1時間やれますから。どうですかね、ほんと何かせっかく今いろいろな意見出てきました。その中から、ただ学校側をお願いするというのではなくて、これはやってみれるか、やろうかというのが出てきたら、そこだけでも固めていくというのはどうですかね。

○佐藤教育部次長

先ほど部長からもありましたが、この前の定例会のほうで委員の皆様から幼・保・小・中、それから地域も含めた連携の場みたいなもの、つくりを星山先生のほうからは練馬区では総務課が所管となって、そういったコーディネート的なことをしたのか、ちょっと調べてみないと分からないのですけれども、そのお話をお伺いしまして、教育委員会の先ほど言った子育てですとか社会教育ですとか、全般が絡んでくる。それから市長部局も場合によっては一部絡んでくると思うのですけれども、その辺りを私たち教育総務課のほうでもコーディネートみたいな形でお手伝いすることは検討できるのかなというふうにお話をお伺いして考えました。ちょっと全然調べもあれなので、どうやって進めるのがよいのかということも含めて、部全体の課題として進められたらいいのかなというふうに思いました。

○桐ヶ谷市長

いいですね。それで、幼稚園・保育園の方々とお会いしたときのあれでは、本当に皆さん幼・保・小の連携、連携と、ずっと言われるのですよ。小学校に入るときに、幼稚園・保育園のいろいろなデータから送りたいのだけれども、それもどう伝わっているか、本当に不安だというような話もありました。だから、逆に言えば、今のうちにその辺を一つのテーマにしながらやると、今の親に対してどう接点をもっていくかというところにもつながってくるかもしれないし、いいチャンスじゃないですか、ね。やってよ。

○佐藤教育部次長

検討は進めていきたい、どのような形でやるのか、どういったやり方が一番みんなが動きやすいのかというところから検討を始めたい。

○桐ヶ谷市長

それ、いつまでやるの。そのうちやりますじゃ、全然駄目。

○佐藤教育部次長

検討は早期に、この間も教育委員さんのほうからも、いじめの前から地域の力だとか学校だけの問題じゃないよという話をずっといただいていたので、そこに関しては重大な課題だと思っていますので、いつまでということではないですけども、早く考えていきたいと思います。

○桐ヶ谷市長

だから、来年度になってから考えますじゃあれだから、そうすると今、例えば年内だと12月だし、あとは1月、2月、いつ頃に何ができるかなと。先生たちは幼稚園・保育園のほうも様々イベントがあるだろうから、これじゃ忙しくて駄目と言うのか分からないけど、何かその辺でおおよそのめどを、この辺までにはこうしませんかというのがあったら、言っちゃったほうがいいよ。

○佐藤教育部次長

今まで幼・保・小とかの連携に全く絡んだことがないのであれなんですけれども、これまでの所管で、当時といいますか、もともとやってきていることがありますから、状況を、皆さんの状況を集約して、まとめていきたいです、早くに。やることになっているのですね。分からないですけど。

○桐ヶ谷市長

どんどん追い込んじゃうんだから、俺なんか。

○大河内教育長

今の、いいですか。考え的には賛成です。ただ、学校現場は新しいものができるというのは、拒否感を持つので、今までやってきたことをきちっと評価をしていただいて、その組織を併用できるのであればいいのだけれども、新たにまた会議が増えたりするというような形ではなく、うまい形でフォローできればなという感じを持っていますので、やることは賛成ですけれども、その部分については現場の負担にならないような形でやっていただきたいなと思います。

○枚山教育部参事

先ほど定例教育委員会の中では、前任者でもあるので、教育研究相談センター長で療育教育総合センター主幹が話をしていましたけれども、幼・保・小連携会議は学校教育課が主管ですので、そこと相談しながらやらせていただきたいと思います。

○村松教育部長

地域といいますか、保護者の方とのつながりという点では、逗子市PTA連絡協議会のそれぞれの会長の方々、市長と面談された際に、毎月定例で集まっているところに、教育委員会からも来てほしいという御要望が、今までは本当にああいう形で年に1回か2回しかお話をする機会がなかったのですけれども、早速10月の頭ですかね、呼ばれて、学校教育課の指導主事が出席をしてきました。また来月にもあるはずですので、毎月こちらからお邪魔させていただくことになりましたので、そういった保護者の方に対しましても、今日出たようなお話をこちらから投げかけをさせていただく。中にはPTAが組織化されてない学校もあるのですけれども、多くの学校、PTA組織がありますので、そういった場を通して、早速次回お邪魔するときに、今日こういうお話が出ているので、また皆さんの中でもどんな考えを持たれているとか、どんなことができるかというのを伺いしていきたいなというふうには思います。

○桐ヶ谷市長

ぜひよろしく。結論はどうなるんですか、これ。今いろいろ話して。

○佐藤教育部次長

次回の会議までに。

○桐ヶ谷市長

だから、これはあと年度末しかないじゃないですか。それまでの間に、もう教育委員会と学校教育を含め、もう事は動いていますよということでもいいですね。

○柏村副市長

まず何から始めるのかということ、あれもこれもでは、多分できないと思うのですね。新しい年度に何を集中的にやっていくのかということ、先ほど佐藤次長が話していたように、それをまず検討させてくれということだと思いのですね。年末までにとか、そういうふうになると、少し時間が足りないかなというふう思うので、ここは予算を最終的にまとめるまでに、予算を伴うものもあるかもしれませんので、そこまでには検討し、結果を示してもらおうというようなことで、いかがですか。

○桐ヶ谷市長

それをもって、次の会議のときで大体もういろいろなことが、またゼロから振り出しで話し合いではなくて、その検証をもとに、どういうふうにいこうかというところが見えてくるとい、一歩でも二歩でも前進するという、そんなイメージ。よろしく願います。これ、誰が頭なのですか。課長…部長。だよね。そうですね。よろしく願います。

○村松教育部長

検討の進捗状況につきましては、逐次委員の皆様、市長はもちろんですが、委員の皆様は随時御報告しながら、3月の2回目の会議に向かっていきたいと思ひます。

○桐ヶ谷市長

ほかにもいくつもあるものですから、とりあえず、ではこれはここで締めにしたいと思ひますが。ぜひ、年度末の会議までに、いろいろな進捗があるように、ぜひよろしく願ひいたします。

4. 議題（2）令和5年度予算編成について

○桐ヶ谷市長

それでは、議題の2としまして、令和5年度予算編成についてを議題にいたします。

これ、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○佐藤教育部次長

教育総務課から説明いたします。令和5年度予算編成方針についてでございます。

予算編成についてですが、まず初めに総合計画の進行管理について御報告をいたします。資料は逗子市総合計画進行管理表というものになります。逗子市教育大綱がございすが、こちらの実現は総合計画との連動のもとにかかっているということになっておりますので、毎年この進行管理を御説明させていただいております。

総合計画の計画の体系につきまして、この資料の1ページをお開きください。真ん中辺り

にピラミッドの絵がございますが、総合計画が最上位で、その下に政策分野を束ねる基幹計画、個別の施策分野を束ねる個別計画が一番下にあるという、この3層構造となっております。

そして、49ページをお開きください。途中でページを、すみません、省略しておりますので、8ページの次が49ページになっております。こちらが教育分野に関する基幹計画、真ん中の計画であります「共に学び、共に育つ、共育のまち推進プラン」、こちら基幹計画の進行管理表となります。こちらにつきましては、まず市の評価としてはBの評価となっております。コロナ禍での当初の目標と現状に乖離が生じていて、目標達成が難しくなっている部分もある状況下で、目標に対する取り組みではないけれども、市民からの要望に応え、施設のデジタル環境の整備の実施など、様々な世代に対して学びの機会を提供できたことを評価する一方で、コロナ禍の変化に対応できなく、取り残される人への対応が求められているところでございます。

また、その下にこの基幹計画に位置づけられる5つの個別計画の評価結果についても記載してございます。生涯学習活動推進プランがB、文化振興基本計画がC、スポーツ推進計画がB、学校教育総合プランがB、社会教育推進プランはAという評価となっております。文化振興基本計画がCという評価になっているのは、施設の修繕計画について、未実施項目が多いことが要因かと思われまます。

その下ですね、審議会・懇話会等の意見。まず総括意見につきましては、評価区分はBとなっております。各個別計画の評価状況に対しましては、生涯学習活動推進プランにつきましては、オンライン環境の整備などにより講座の受講方法の選択肢が増えたことへの評価や、若者への文化の継承に動画を用いるなどの御提案がありました。また、逗子市文化振興基本計画につきましては、オンライン環境の整備や子どもに対する文化体験の提供など、評価項目にはない点での評価がございました。スポーツ推進計画におきましては、高齢者向けプログラムの参加者が多いことへの評価がありました。学校教育総合プランにつきましては、学校運営には地域の力が不可欠であり、コミュニティ・スクールの導入事例を参考にされたいとの御意見がありました。社会教育推進プランにつきましては、受講者数が少ない講座についての周知方法等の検討が必要という御意見がありました。

ページを1ページおめくりいただきまして、次期計画に向けた意見といたしましては、生涯学習と社会教育の整理統合について、また多様性を意識した取り組みの必要性についての御意見をいただいております。

こちらの説明に関しては、雑駁ではございますが、以上とさせていただきます、次に令和5年度予算編成方針について説明をいたします。予算編成方針資料をおつけしておりますものを御覧ください。予算編成方針につきましては、10月17日付で発出されておりました、現在この方針に基づいて予算の要求を進めているところです。具体的な予算編成方針といたしましては、こちらの8ページでございます。内容ですけれども、令和元年度に終了しました財政対策プログラムが令和3年度決算においても好影響となっているが、少子高齢化の進展による市税収入の減少傾向が見込まれる中で、高齢化等による社会保障費の増加、子育て支援や公共施設の老朽化対策、自然災害への対応など、様々な行政需要のほか、昨今の原油高、物価高騰などにも対応する必要があるということが書かれています。

歳入に見合う規模の中で、行政サービスを取捨選択し、質の高い事業を実施することが求められており、歳出抑制だけではなく、企業誘致や起業促進、民間活力の導入促進による新たな事業展開に積極的に取り組むことで、市税収入の確保に加え、まちの元気・魅力を増していくということが記載されています。

教育委員会といたしましては、先ほど杵山参事のほうから話がありましたように、学校教育課の市費負担職員の加配や、教育総務課では学校施設の老朽化対策など、こちらを重点事項として予算要求を進めてまいりたいと考えております。

以上を踏まえまして、令和5年度予算についての御議論をお願いできればと思います。

○桐ヶ谷市長

今、予算編成等について説明ありました。これについて御質問、御意見ございましたら、いかがでしょうか。先ほど杵山参事から内容についてもこういう項目でというのがつきました予算を通しましたという話がありましたように、内容はそういうことになりますので、何か御質疑ございましたらお願いいたします。

○福田委員

市長おっしゃったように、元気な学校、元気な先生方を、ある意味では支えていきたいということで、予算をですね、人員の配置ということを中心にして振り向けられてくれたことに対して、本当に感謝したいと思います。教育委員会としてはやはり人なのですね。人がまず十分に配置されるかどうか。それによって各先生方が本来果たすべき役割を実際に実現してもらえらるだろう。いじめの問題とか、今、学校は各種の問題を抱えています。不登校もそうですね。なかなか先生方一人一人のお力では解決できない。そうすると、今言う、いわゆる「チーム学校」という形で、組織的に様々な問題に対応しなければいけない。そこにいろ

いろな役割を担った人たちが加わっていただければ、組織力としては向上するし、学校としての活力がみなぎってくるということで、まず人は配置していただけたということで、本当に前進かなというふうに思っています。

教育委員会の側としては、そういう予算を頂いた上で、人をまず確保しなければいけないという問題、適材適所あるいはそれぞれの役割を十分に果たし得る人を確保できるかどうか。これはまず第1段階ですね。それから第2段階は、学校に入ってきたときに、さっき「チーム学校」と言いましたけれども、ただプラスアルファで足し算で学校の力が回るかというのと、それだけでは足りなくて、それぞれの連携のもとで、有機的な関連性を持って立ち向かっていかなければいけない。現状というのはやはりね、話を聞くと、例えばスクールカウンセラーが来ました。それからSSWという形で、人も配置しました。確かに増えてはきている。いろいろなサポートもいただいているけれども、じゃあ十分に彼らや彼女たちの力が発揮されているか。あるいは、先生方はそれを受け止めているかということになると、なかなかイエスとは言えないというのがあって、そこら辺を今度は、これも教育委員会、あるいは学校の管理者の問題でもあるし、先生方一人一人の問題でもあるのですけれども、みんなでそれぞれの人たちの役割を認識しながら、学校全体で取り組んでいこうという姿勢が求められるのかなと。そこら辺はやはり非常に大きな課題になっています。

それから、いろいろな人を配置していく中で、それが未来永劫続くわけではないし、人の数に関しても、やはり考えていかなければいけない問題があるので、投入したそういう予算に見合うような最終的な成果が出てくるかどうかというのは、常に監視していただいて、その必要に応じて人を増やしたり、あるいは減らしたり、それから職種を変えたりとかという形での検討もしていく必要があるのかなと。そういうような形で、かなり、これで決まりというわけではなくて、実際に動かしてみても、様子を見ながら、よりよい学校の経営を見ていただければありがたいかなという。まず、とにかく予算をつけていただいたということは、教育委員会の立場からすると、すごくありがたいし、これをもって子どもたちを育てるという姿勢を一步でも示すことができるかなと。多分学校教育だけでは駄目…同じようなことがほかでも言えると思うのですよね。だから、学校教育の在り方としてはそうですけれども、ほかの分野に関しても同じように、限られた予算の中で難しいことでしょうけれども、子どもを育てるということに関しては、ぜひ新たな目配りをしていただければと思います。要望です。

○桐ヶ谷市長

ありがとうございます。去年でなくてよかったなと思いましたよ。去年だったら、つけたくたってつけられなかった。結果がこう出てきて、さあ変えられるぜという、このタイミングがあったので、思い切ってわあっとやれましたけれども、これは今までも大体プログラムが稼働中であれば、プログラムそのものはすでに終わっているのですけれども、まだ安心できる状態ではないという、かなり絞った予算で、どうでこうで、これでどうだという話になるのですが、それはもう思い切りできたというのは、よかったなと思います。

今、参事のほうで、委員の御意見、人の確保から含めて、あと回し方がね、本当に課題になってくるので、これからがもっと大変だと思いますけれども、いかがですか。意気込みを。

○枚山教育部参事

それぞれの立場の方に役割を認識していただいているのは確かに大切なことかなというふうに思います。人が増えるだけではなくて、いろいろな立場の形のお仕事の方が、その仕事を認識してやっていただく。それから、その方だけではなくて、学校のほうの受入れ側の先生方にも、この人の役割をというところについては、こちらの努力かなというふうに思っております。あとは、成果については、この間、査定の中では、事業査定の中でも市長をはじめ副市長、それから経営企画部長のほうからも成果をしっかりと確認してというふうにお話しされていますが、まず人充てです。教員なら誰でもいいというわけではないので、そこについては今、私が知り得るところで、どなたがいいかなというところのピックアップはしています。できるだけ引き受けていただくようお願いしていこうかなというふうに思います。全国的に教員不足がうたわれている中で、なかなか定数に対して正規の方がなかなか埋まらない状況なのですが、いわゆる非常勤の方、会計年度の方の登録については、比較的来ているので、その方を何人とか押さえて、今日も午前中に教員登録の方が来ていますので、正規の方というのはなかなか、正規の方というか、フルタイムの方はなかなか難しいのですが、非常勤でという方の登録については、全くないわけではないので、早めに確保して、来年度に向けて準備したいなどは思っています。

○桐ヶ谷市長

動き出しますからね。ほかに御意見ございませんか。

○星山委員

さっき説明していただいたところと、今日のいじめのチームとして取り組んでいこうということと、非常に関連性の高いところで、改めて読むと、これを実行していくとうまくいくのではないかなと思いました。今までコロナで止まっていた部分が多いのですけれども、先

ほども教育長さんがおっしゃっていたように、新たに立ち上げるというよりは、今あるものをネットワークを強化することによって生かしていくという考え方、逗子は決して遅れているわけではなく、むしろ先駆的で、非常に人が生きている市なので、そういうところで、あとはコーディネーターという役の方ですね。やはり教員であれ、地域の方であれ、学校と地域をつなぐ方であれ、その方を人材育成していくということがこれから大切になっていくのかなというふうに思いました。

いつもいらっしゃらない市民協働課のところが気になってしょうがなく、結局、同じことを市民レベルでなさっているのだなと思ひまして、たくさん異年齢・他世代のいろいろな方の中からやはりそういう人材を育成していただいて、ちょっとその先のことは分かりませんが、プラットフォームみたいなものがあって、そこから適材適所で、またいろいろな生涯、自分の意思を輝かせていくというようなのが、もうちょっと見えやすく回り始めると、いろいろなところで学校や子どもたちや地域に力を貸してくださるという市民の方は、逗子市は恵まれていらっしゃるのではないかなと思いますので、その辺のところも人が流れるというのですかね、循環するのが見える化される、見えるようになってくると、育成とプールされるものと活躍していただくという、そのSDGsですけれども、その辺りのところが今後整ってくると、うまくいくのではないかなというふうに感じました。

○福田委員

育成という問題はすごく大事で、僕は人材の確保というところから入りましたけれども、確保するためには人を育てていかなければいけないということですね。それがだから自前なのか、ほかの人に頼るのかというところで、逗子が例えば自前で育成できるという素地があれば、これはやはり大事にして、次世代あるいはどこかの機会に何か参画してもらおうということができないのではないかという。星山委員、常々言うように、逗子の市民は非常に力があるということであれば、やはりそこを少してこ入れして、皆さんに協力してもらえよう、そういう働きかけをぜひしていく必要があるかと思ひます。

○桐ヶ谷市長

そこにはどういう取り組み方をしていきますか。

○枚山教育部参事

今お話がありました教育相談コーディネーターの育成について、もちろん研修を受けた上で、その立場に仕事をしていただいているのですけれども、この間、育成というよりも、育成ももちろんなのですけれども、その仕事が機能しない状況になっていたと。要するに、○

J Tではないですけども、現場で経験を重ねてというところが、なかなかできなかったところがあります。まず1つ、教育相談コーディネーター後追いを加配していただくことで、実際に子どもたちを見取る、それから保護者と対応する時間が捻出できるということがまず一つ大切なのかなというふうに思っています。その上で、市の中でも、教育相談コーディネーターの担当者会等で、ほかの担当者会と違って、教育指導教員等で、S Cとか療育教育総合センターの職員の方等も出て、そこで情報共有しながら、自己研鑽ですけども、していく機会がありますので、そこを使ってというふうに思っています。何よりも現場の中で動ける時間を確保できるというのは、非常に大きなことだなというふうに思っています。

それから、教員の育成というところについても、御存じのように初任、新採用の教員については、かなりの時間かけて年間、初年度は法定研修ということで、研修の機会がありますし、それを見る担当の教員もいるのですけれども、臨任非常勤の方を、経験の浅い方を指導する立場の先生というのが、実際にはいるものの、なかなか時間がとれないというところがありますので、やはりつけていただいた教育指導教員の増員については、特にその臨任非常勤の方に対してアドバイスできるような形の配置を考えていますので、そこで経験の浅い方を育てて、育成して、行く行くは本市のほうで採用できるような流れができればというふうには思っています。

○大河内教育長

今日の前段の定例会の中でも、免許更新制が廃止されて、学校の中での教員の研修が問われているというところ、私のほうが話させていただきましたけれども、今、参事が言ったように、教育相談コーディネーター、学校の中でも核なんですよ。その核の先生方が、時間がないということで、その先生も余裕がないために、自分が指導した、そういうノウハウを伝えたり、または後ろ姿で学ぶようなね、そういう余裕すらなかったので、今回そういうマンパワーをつけていただくということは、学校の中でやはり学び合う、次は私がというような、そういう部分もできると思うのです。相談コーディネーター、イコール。忙しくて、全てを請け負って、いつ帰ったか、いついるか分からないみたいな話だと、全くやはり機能しないので、そういう意味ではすごくありがたいなという感じを持ちますので、ぜひそれが機能するようにね、やっていければと思います。

○星山委員

1個だけ、すみません。私、逗子と関わらせていただいて、もう六、七年になるのだなと思ったのですが、そもそもこの市に出会ったのは、サポーターさんを育成するというと

ころだったのです。もうこれだけの年月やっているのです、相当数いるはずなのですが、プラットフォームがなくて、受けて、さよならになっている方がたくさん、でも私、一番最初にやったときから、すぐれた方にはたくさんお会いしてきたのですね。もちろんその方たちは、みんなボランティアになるわけではないけれども、でも、何かそこもきちんとあれば、いろいろなところでまた力を発揮していただけるという、今度は市民側というかね、そちらのコーディネートセンターみたいなのがあって、それぞれ皆さんまた御活躍いただける方と、学校側とがどこかで、それが将来のコミュニティ・スクールかもしれませんけれども、地域の人材プールセンターと学校内のコーディネーターというところがリンクしてくると、もう少し支え手が増えるかな。それは今度は学校の中だけではなくて、不登校のお子さんとか、乳幼児期のお母さんの相談相手とか、いろいろやりたい方は、何か逗子の市民の方たくさんいらっしゃるなど実感あったのですけれども、何だかちょっとぼろぼろになってしまった気もするので、その辺りのことも御参加の皆様でアイデアがあったら、育成はしていますが、それがうまくというのは、ちょっと自分としてももう少し何か工夫があればいいかなというのは長年感じておりましたので、お願いします。

○大河内教育長

今、星山委員が言われた過去の人たちというのは、優秀な方が多いので、一つ領域だけではなくて、いろいろなジャンルでリーダー的な活躍をされている方なのですよね。交通整理をしてあげないと、出番がなくなってしまうので、役割があるのだけれども出番がないというのが一番よくないと思います。古い話でいけば、逗子で平成元年あたりから人材バンクという学校支援の組織を、立ち上げ、これは後々どこの市町もやったのですけれども、逗子のほうはすごく先見的にやりましたね、各学校の求める人材を派遣するということをおこないました。ただ、これの課題は、バンクに登録した方々の年齢が上がってくると、なかなか持続可能でなくなってしまい、更新もできなくなる課題が残りました。星山委員が言われた方々はいろいろなところに顔を出せるような人なので、その人たちが、あ、このポイントねと出れるようなね、そういうプラットフォームなのか、そういうバンク的なものなのか、またそのところは取り巻くコーディネーター的な行政の役割が必要になってくるのか、いろいろなやり方があると思うのですけれども、そういう出番を持っている方々が発揮できるような、逗子ならではの形でできるのではという思いをもちました。

○桐ヶ谷市長

まだもう一つあるので、お話も尽きませんが、ここで一旦この課題は切らせていただきました

と思いますが。今いろいろお話出ているように、育成するということに対しても、これは続けなければいけないと思いますので、課題として認識をお願いしたいと思います。

4. 議題（3）逗子市教育大綱の改定について

○桐ヶ谷市長

次に、議題の3の逗子市教育大綱の改定について、説明をお願いいたします。

○佐藤教育部次長

御説明いたします。資料の逗子市教育大綱の改定についてを御覧ください。

教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が地域の実情に応じ当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものです。現大綱の期間が本年度の末までとなっておりますので、今年度中に次期大綱の改定を行いたいと考えております。

大綱の策定につきましては、本市におきましては教育委員会での検討をベースに総合教育会議で決定をするということで、これまで行ってきました。本日は次期の大綱につきましても同様の形で進めてよいかということをお諮りをするものです。

現大綱については、簡単に触れますと、期間は4年間、構成につきましては第1章に教育委員会で決定した逗子教育ビジョンを大綱の理念として位置づけておりまして、第2章の教育施策の基本方針及び第3章主な事業につきましては、逗子総合計画の基本構想及びリーディング事業となっております。教育施策を進める上での基本方針について、総合計画との整合を図りながら策定をしているものです。

改定のスケジュールにつきましては、記載のとおりです。本日市長から提案をさせていただきまして、教育委員会での検討を経て、来年3月の総合教育会議で決定をしたいと考えております。以上です。

○桐ヶ谷市長

先に行く教育委員会。これにつきまして、御意見いかがでしょうか。

流れとしましては、こういうスケジュールで進まさせていただきたいということで、御理解、御了解をいただければと思います。

4. 議題（4）その他

○桐ヶ谷市長

それでは、一応ここで3まで終わりました、議題（4）その他ということになりますが、いかがでしょうか。何かございましたら御発言お願いしたいと思います。

よろしいですか。限られた時間になってしまいましたが、大きな課題ございまして、本当に今日活発な御意見頂戴しました。何度も申しましたように、予算としては来年度、見通しがついてきましたので、進めてまいりますけれども、本当に中身を充実したものにしていくというのは、今からが大事な時期です。そして本当に1年やり、2年、そして3年ぐらいたったときに、やっぱりあのときがターニングポイントだったと。あれで逗子は変わったんだと言えるぐらいに、大きな成長といいますか、成果を目指したいと思います。それにはいろいろな角度で御意見を自由闊達におっしゃっていただいて、それを進捗を図るほうも謙虚に受け止めて、一つ一つやはり実行に移していく、結果を見ていくということが本当に大事だと思っています。

そういう意味では、僕は何度も、前にもお話しさせてもらいましたけども、表に向かっていじめがあったということは、もうオープンにしています。それで、そこから変わるのだというこのメッセージに切り換えていかないと、決してプラスにはもっていけないと考えております。ですので、変わるつもり、変えるつもりはもう十分ありますので、そこも委員の皆様も御理解いただき、きついこともあえてずけずけ言うぜというぐらいの気迫で、これからまた再度御支援いただければと思っております。ありがとうございました。

もう終わりでもいいですか。

5. 閉 会

○佐藤教育部次長

どうもありがとうございました。本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして令和4年度第1回逗子総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。